

「教養教育としてのカフェ」研究： カフェ・ネットワークの構築とその意義 中間報告

プロジェクト長：猪瀬 浩平

プロジェクトメンバー：植木 献・上野 寛子・三角 明子

1. 研究目的

教養教育において、パラダイムの再構築は重要な課題の一つである。学習者が課題を発見し、問題解決の方法を探求するには、これまで依拠してきた既存のパラダイムを捨て、新たなパラダイムを構築する必要に迫られることがしばしばある。高等教育に初めて触れる学習者にとって、それは知的・人格的に大きく成長する契機となるが、他方これまでの常識や価値観を否定することにもなり、日常生活にも少なからぬ影響がある。

問題解決のため不安定になりがちな学習者は、課題を共有する仲間と出会い、議論することを通して、価値観の再構築にじっくり取り組むことが可能になるのではないかと。

この研究プロジェクトでは、授業時間外で学習者が自由に議論し、問題を発見・解決するための場（カフェ）をキャンパス内外にいかにつくられるかを探求する。明治学院内部ではすでに学問分野ごとや、教員の個人的な取り組みなどで、こうした様々な活動が行われており、それぞれ個別の成果を上げているが、これらの場を横断的に結びつける活動は行われてこなかった。問題意識を持つ学習者にこうした様々な場があることを組織的に知らせ、有機的に場を結びつけていく方法を模索する。

2. 研究活動

2-1 猪瀬企画

1) 郡上おどりin戸塚

民俗芸能を介して、その担い手、学生、そして学外の人々との間に、これまでなかったコミュニケーションを生み出すことを目的とする。

実施日：2013年5月25日

会場：横浜校舎8号館インターナショナルラウンジ&善了寺

本年度は戸塚まつりにおいて、郡上おどりを通じたトークライブとワークショップ、そして踊りの実演を行った。例年どおりゲストには郡上出身の若手御囃子グループ「郡上舞紫」をお招きした。新たな試みとして、国際学部の協力をうけながら、インターナショナルラウンジで多言語郡上おどり講座を開催した。ゲストのおどりや郡上の文化・歴史についての説明を、本学学生が英語や中国語に通訳し、日本語学校の学生や留学生から多数の参加が見られた。終了後、矢部町の善了寺に移動し、郡上おどりの実演を行った。5年目の恒例行事となり、初めて200人を超える参加者が見られた。

このように、今年度の特色は、民俗芸能学習と、外国語や異文化学習を組み合わせた点にあった。

2) ワークショップ「屋台という回路」

実施日：2013年11月27日

実施場所：横浜校舎内各地

メディアとしての屋台を武器に鳥取のまちづくり（空洞化する中心市街地の活性化や、多様な人々によるコミュニティの創造）を画策する若者集団「鳥取大学屋台部」をゲストスピーカーに、実践報告を行うとともに、横浜キャンパスで屋台と大学、屋台を介した人と人の間に生まれる化学反応が如何なるものになるのか実験を行った。

当日はゲストによる講演の後、遠望橋上に屋台を設置し、公開読書会を行った。通りすがりの学生が参加するだけでなく、教員や職員の参加も見られた。普段は教室で行われていることが外から見えない中で、この実験により授業公開のひとつの可能性が示される結果となった。なお次年度に向けて、本格的な屋台づくりが検討されている。

2-2 上野企画

上野企画

1) 学生生活型カフェ第1弾「知らなきゃ損！大学生の基礎知識」（5月20日）を8号館インターナショナルラウンジにて実施

高校と大学の違い、大学って何ですか、大学の授業や大学のしくみなどについて、意外と知られていない基礎知識（＝常識）を解説し、学生が日頃抱いている些細な疑問から大きな悩みまで情報を共有し、みんなで解決していくワークショップを実施した。40名以上の学生が参加し、大半が1年生であった。1年生にとって新学期が始まってまだまだ不安を感じる2か月目に本企画を開催したことは大変有意義であった。

2) 学生生活型カフェ第2弾「即トレ！メンタル・ブートキャンプ」（6月24日）を8号館インターナショナルラウンジにて実施

メンタルを鍛えることは対人関係を良好にしたり、就職活動を含め今後の社会活動の糧にもなる。「自尊心」を高め、「ストレスマネジメント」の仕方を学ぶことにより、メンタルを鍛える方法を体験的に習得した。本企画には30名近くの学生が参加した。

3) 学生生活型カフェ第3弾「SST：ソーシャル・スキル・トレーニング」（10月14日）を8号館インターナショナルラウンジにて実施

植木先生から「Non verbal communication：言葉を使わずに私たちはどこまで自分について

伝え、相手について知ることが出来るのか」についてトレーニングを受けた後、仁科先生が認知心理学の成果を紹介、最後にVerden先生から異文化コミュニケーションについて学び、コミュニケーション力UPに必要なスキルを身につけた。本企画には20名を超える学生が参加した。

4) 公開ワークショップ「働くこと、生きることについて考える」(11月14日)を720教室にて実施

NPO法人Future Dream Achievement 事務局長の成澤俊輔氏の指示に従い、300名を超える学生が他者を意識し、他者を想い、他者の存在により「自分」の存在を確かめることを体験した。成澤氏は数年前に視力を失った視覚障がい者であるが、これまでの人生から得たエッセンスがうまく組み込まれ、一つ一つの言葉が心に刻まれ、涙する学生がでるほど感動する時間であった。

5) 学生活性型カフェ第4弾「76,800時間を、あなたはどのように使いますか?」(11月29日)を8号館インターナショナルラウンジにて実施

まず、私から就職活動の現状や働き方の変容などの現代社会における基礎知識を提供した。次に、学業と両立しながらフリーランスディレクターとしてCSV事業のプランニングを行っている牛山翔太氏(本学国際学科4年)をゲストに迎え、不安定な時代の働き方について話題提供を行った。最後に、「働く」をテーマに参加者の悩みに答えた(参加者15名超)。

※76,800時間。1日8時間、週休2日で40年働いた時のおおよその労働時間。

6) ダイバーシティカフェ「誰も教えてくれなかった夢の描き方～出会いで変わった挑戦者たち～」(12月20日)を8号館インターナショナルラウンジにて実施

社会に出ると様々な人や様々な状況に遭遇する。困難な状況を乗り越え自分の人生を切り拓こうと挑戦し続けている方々(就労困難者)と積極的に交流するカフェ。まず、成澤俊輔氏(NPO法人FDA理事)が「日本における就労困難者の現状」について紹介し、次に、坂田浩次氏(NPO法人FDA)が就労困難者(さまざまな障がい者を含む)4名を紹介しながら、「就労困難者が抱える過去・現在・未来」について語り、その後、パネリストと学生が交流した。15名超の参加者とともに、実生活、実社会で出会う多様な人を知ることで、固定観念、偏見から自分を解き放ち、自分の将来やこれまでの人生について考えを深める時間となった。

2-3 植木企画

朝カフェ

横浜学生課、横浜図書館との共催で、朝7時半から9時までの90分を使い、一日を有意義に過ごせる朝カフェ企画を行った。パン、コーヒーで空腹を満たし、新聞・書籍を読んで討論して

から、1限に向かうというフレッシュな一日をスタートするための企画である。

実施日：11月14日（木）、11月28日（木）、1月15日（水）[予定]

会 場：横浜図書館りぶら 定員20名

当初は朝ごはん目当てに参加する学生が多いと予想していたが、むしろ一日を充実させたい、今の生活を何か変えるきっかけが欲しいという意欲的な学生が多く集まる結果となった。

近年、島根大学や立命館大学などでは朝食提供プログラムによって、学生の食生活改善と授業参加の促しに一定の効果を上げている。朝カフェはそれに刺激を受けての発案だが、出席や栄養面だけではなく、所属学科やサークルと言った日常的な枠組みから自由で知的な刺激をより多くの学生が共有することを目的とする。

第一回、第二回は参加の敷居を低くするため、その日の朝刊2紙を読み比べ、気になった記事を報告し合い、グループディスカッションを行う企画とした。また第三回ではブック交換¹という本の紹介を行うプログラムを実施する予定である。

今年度は試験的な実施にとどまるが、新入生の学習意欲向上や知的な刺激のコミュニティ形成という目的を考えると春学期の早い段階からの定期開催が望ましい。春学期からの定期開催を目標に今年度3回の実施結果を精査し、次年度の準備をしていきたい。

3. 今後の展望

本年度各企画に、企画者以外のメンバーも可能限り参加してきた。これまで行ってきたプロジェクトが如何なる成果を上げてきたのかを整理し、他大学で行われているカフェプロジェクトの事例比較などを行い、大学における新たな教養教育のスタイルとして提案していきたい。

1 2010年2月5日から始まり、フィレンツェ、ロサンゼルス、北海道から沖縄まで25都市で開催されている本の交換会のこと。決められたテーマに合った本を持参して、自己紹介をかねた本の紹介をした後は、本の交換をするといういたってシンプルなコミュニケーション型ブックトークイベント。日本国内や海外のブックカフェ、BAR、図書館、学校などで絶賛開催中。本を通じて参加者の人柄を知る絶好のチャンスになることから、新しい企業内研修や書店内のコミュニケーションツールとしても注目されている。http://bukubuku.net/?page_id=62